令和７年度　　園評価書

園番号　50　　園名 横砂こども園

Ⅰ　経営の重点に関わること

評価段階（A：よくできている　B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

1　教育・保育目標	2　重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
やさしく たくましい子	よ～し、やってみよう！ こ～してみよう これイイね！ ～すごいぞ！ よこすなっこ なんどでも～	・「よ～し！やってみよう」と自分のやりたい遊びに意欲を持ち、「こ～してみよう」と自分なりに工夫して遊ぶ姿がある	「やってみたい！」という気持ちや好奇心を持ち、自分なりの思いを持ってやってみようとしたり、上手くいかない時も違う方法を考え工夫しようとする姿が見られるようになってきた	B	B	・異年齢児と遊ぶ経験の積み重ねにより、遊びの刺激、積み重ね引き継がれていく憧れ・優しさ 、思いやりの心が育つ貴重な体験をしている ・小さい園の良さとして子ども一人ひとりが好きな遊びを楽しめるところが良い ・園の意見として〝上手くいかないと途中であきらめてしまう〞という点が課題ということだが、経験があって次へとつながるので、長い目で見るとこのような経験も必要なのではないかと思う。しかし、園の説明を聞いて、やる前からできないとやろうとしない子もいるとのことなので、それを乗り越える、失敗をしてもいいからやってみることは必要ですね。 ・子どもによって経験不足から、次へとつながりにくい子もいる。保育者も一緒に遊ぶ中で、やってみたくなるような環境を工夫し、できた喜びや自信につなげ自己肯定感を育てていきたい	・子どもが主体的に遊べるように保育者が一歩待ち、子どもの思いを十分に受け止めたり、引き出したりしていく。自分でできた喜びを知らせるとともに、自分たちで上手く行かない時も違う方法を考え工夫しようとする力をさらに育てていきたい ・意欲につながる様々な経験ができる機会を作り、もっとわくわくし遊びこめる環境を作っていく ・少人数保育の良さが活かせるようにすることや刺激し合うことでの育ちを見通して保育の体制や環境設定を考えていく
		保育者や友だちと一緒に遊んだり関わる中で「自分ってすごい！」という気持ちを持ち、一人ひとりが力を発揮して遊んでいる	友だちや異年齢児の姿を見て刺激を受けたり、真似してみようとする姿が見られるようになってきた。また、友だちの意見に耳を傾けお互いにアイディアを出し合い認め合いながら、自分の力を出し遊ぶ姿が見られ始めている	B	A		
		様々なことに意欲を持ち試行錯誤を繰り返していく中で生活や遊びを進めている	経験したことを基に試したり、「もっとこうしたい」「こうしたらどうなるかな」と工夫しながら遊ぶ姿が多くなってきているが、上手くいかないと途中であきらめてしまう姿もある	B	B		

Ⅱ　各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	各年齢の発達を抑え一人一人の発達や経験の差を理解し、個々に応じた教育保育を進めている	日々の保育や会議の中で、子どもの姿を伝え合い一人一人の育ちを職員間で共有し、個々に合わせた言葉かけや環境などを考え関わっている	B	B	・職員の捉え方が一人一人異なるので、伝え合いの難しさがある。しかし、必要な内容は確実に伝えている。 ・今年度は講師を招いてやったことが良かった。減災教育について知らないと知っているのとでは全然違う。身の守り方を知ることができた。小さい子なりに〝ユレタ〞で地震の疑似体験したことなど、大きくなっても覚えているのではないか ・地震以外にも浸水の心配もあり、避難の経路を考えていかないとならない ・野菜の栽培については、地域の方の力を借りていくのも良いのではないかと思う ・講師を招いたサポート研修で学んだ支援方法を実践していったことで、子どもも園で過ごしやすくなったことはよいことだと思う。引き続き学び合えるとよい。 ・今の時代、職員や保護者が機会を作らないと、子どもたちがなかなか自然にふれることができないので、〝しぜんとなかよし大作戦〞は月1回継続的にやっていくことでもっと幅が広がっていくと思う ・コドモンのドキュメンテーションは、すぐに見れる、タイムリーに子どもと話ができる、生の情報をもらえるし、家族で共有でき、親は安心する。先生たちの負担にならないようにやれる範囲でやってもらえれば良いと思う ・Face Time等を活用し、いろいろな方法で交流ができているのが良いと思う。 ・お年寄りなど地域の方も子どもたちとの交流を楽しみにしているので、これからもつながりを大切にしていきたい。	発達過程や教育課程と照らし合わせ一人一人の育ちや発達をおさえながら環境や必要な関わりについて職員全体で考えていくようにする
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人一人の生活リズム・家庭環境を把握し、ゆったりとした雰囲気の中で安心して生活できるように配慮している	コドモンでの配信や送迎時に保護者と子どもの様子を伝え合う中で、家庭環境やその日の体調などを考慮して保育を行っている。朝の打合せ時に職員間で共有し、その子の思いに寄り添いながら安心して過ごせるようしている	A	A		子どものリズム、ペース、思いを大切にし、年齢、発達、家庭環境に合わせた関わりをしていくことを続け、職員間で共有していく。また、保護者とも連携を図っていく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	生活や遊びの中で、いろいろな素材・資源・道具に触れ、特性に気づきながら遊びに取り入れ、その中で物を大切に扱うことを意識づけている	季節や子どもの興味・関心に合わせ、自然物や様々な素材、必要な用具にふれて遊べるよう用意している。物を大切に扱い片付けることについては、片付けしやすいよう表示の工夫、保育者が見本となるよう関わってきた中で少しずつ育ちつつある	B	B		片付けまでをふまえた遊びの見通しや楽しさの残る終わり方を考えていきたい。物の性質、使い方、扱い方を分かりやすく伝えていく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	「自分の身は自分で守る」力を身につけられるように様々な緊急な状況を想定し計画的に避難訓練や不審者訓練を実施している	自園で講師を招き、減災教育を受けたことで保育者自身の意識がより高まった。子どもへの伝え方や具体的な避難の仕方について見直すきっかけとなった。子どもたちが自分たちで危険に気づき自分の身を守る方法を身に着ける経験を重ねている	B	A		今変わりつつある園での防災についてまずは職員から意識を高めて、そして職員が検討し学んだこと保護者に発信していく。様々な想定の避難（避難のしかた、避難経路など）を共有していく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	食育活動や栽培を通して、栄養士や調理師と連携し、食に関心をもち楽しく食べる機会をつくっている	食育や栽培で様々な食材にふれる経験をし、食に関心が持てるように意識していった。また、行事の誕生会の保育者劇から絵本の物語のイメージが広がるようなクッキングをしたりパンバイキングなど楽しく食べることができるようにしている	B	B		食育やクッキングの場に調理員さんにも参加してもらうなど、食への感心につながるようにすすめていく。栽培については見通しをもちながら、すすめていきたい
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	一人一人の特性や個性に合わせ、支援計画をを立て、ねらいをもち園内研修を実施し、支援の手立てを学び合い共通理解している	サポートプランを基に支援が必要な子どもに対して安心できる環境作りや関わりを職員間で考え共有した。職員間で連携を図りながら、研修で学んだ支援の方法を実践し、より良い手立てを考えながら保育をすすめた	B	B		支援に必要な知識を学び合う研修を計画、実施していく。気になる子も含め支援が必要な子への手立てを継続的に話し合いすすめていく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	自分の役割に責任を持ち、組織として協力し合いながら園の教育・保育をを進めている	分掌を中心に行事や活動をすすめていった。全体への共通すべき伝達が十分にできなかったこともあったが、職員同士声をかけ合い協力することや日々の保育をすすめていくチームワークの良さがある	B	B		自らの役割を把握して保育や行事の準備をし「報告・連絡・相談」を大事にし、丁寧に伝え合い、スムーズにすすめられるようにしていく
6 研　修	(1)研修体制の充実	「今日のワクワクを明日のわくわくにつなげるために」を研修テーマにし、日々の保育を進めている。年に4回研究保育を実施し、園内研修を進め全職員で学びを深めている	研究保育を通して他園の保育者からの新しい意見や考えを聞くことができ学びが深まった。子どもの姿を捉えることを通して、わくわくする心の動きを追うことができた	B	B		小学校教諭に研究保育の事後研修への参加を働きかけ、小学校への接続に向けての共通理解を図っていきたい
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	季節に合った素材を取り入れ遊んだり、散歩に出掛け自然物に触れて、のびのび楽しめる環境が用意されている。「しぜんとなかよし大作戦」として、地域の自然に触れる機会を作っている	春から同じ場所にくりかえし散歩に行く機会を作ってきたことで、季節の移り変わりによる自然の変化に気づく姿が見られるようになってきた。また、集めてきた自然物を製作に取り入れ親しむ経験をすることができた。環境指導員を招いて交流しながら様々な素材、遊びに触れられるように意識して活動をしていった	B	B		園外保育に多く出かけたり、園庭の自然を活用したりしながら、季節の変化に気づきその季節の自然とふれあう機会を十分持てるよう年間計画に取り入れ、すすめていく。環境指導員と交流しながら経験を積み重ねていきたい
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	園だより、クラスだより、ドキュメンテーションをコドモンで配信し、日頃の活動の様子を伝え、園の取り組みを発信している。必要な家庭と随時面談を行い、連携を密にして保育を進めている	コドモンでのおたより、ドキュメンテーションの配信など、写真や動画を活用し、伝わりやすい工夫をし発信している。送迎時など、保護者の心に寄り添い必要な支援や声かけを意識して行っている	B	B		おたよりやドキュメンテーションにおいて、写真を使用し保護者に園の様子をわかりやすく発信していく。また保護者が見やすいところに掲示するなど、さらに関心を持ってもらえるような工夫をしていく。
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	近隣園（西久保、袖師、嶺、興津北）や小学校と交流を行い、園児・児童・職員とのつながりを深めたり、研修を通して園理解を図ったりしている	近隣園と交流の機会を昨年度より増やし、少人数では経験できない集団遊びも楽しむことができた。今年度は初めての試みでフェイスタイムによる交流の機会を作ったりしてきたことで、子ども同士親しみをもち関わっていた。研修会の場で、近隣園の職員や小学校教諭と就学に向けて情報共有することができた	A	A		来年度も近隣園や小学校との交流を継続していく。早めに連絡を取り合い、年間計画をたてすすめていく。就学に向けて小学校との交流の場を大切にし、安心して就学が迎えられるように工夫していく
１０ 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域の活動に参加したり、地域の方と関わる機会をもったりし地域や地域の人々を知り親しみを持つことができるようにしている（奉納相撲大会・子育てトークの会・花育教室・津波訓練など）	地域の催事、子育て支援事業への参加を通して、地域のことに関心を持ったり地域の方に親しみが持ったりできるようにしていった。減災教育に地域の方にも声をかけ、数名の方に参加していただけた	A	A		地域の方々との交流を大切にしていく。様々な世代の人（未就園児、中学生、お年寄りなど）との交流を楽しみ、親しみが持てるように発信の工夫をしていく。